



かわごえ



民児協だより

〔第74号〕

平成30年6月発行

川越市民生委員児童委員協議会連合会広報部会／川越市小仙波町 2-50-2 川越市社会福祉協議会内 ☎049(225)5703・FAX049(226)7666



五月空高く泳いでいたこいのぼりを探しているのか
首をスーッと伸ばし咲いているのは花菖蒲

撮影者 鈴木 宏志氏

今日は、川越市民生委員児童委員協議会連合会の平成三十年度総会が、盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

民生委員・児童委員の皆様方には、日頃から地域の小さなお子様からお年寄りまで様々な方の相談役として、また市民と行政を繋ぐパイプ役として御尽力をいただいたいておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年の十月に発生した台風第二十一号では、寺尾地区をはじめ市内数か所で大きな浸水被害が発生しました。その際にも地域の民生委員・児童委員の皆様方に



川越市長
川合 善 明

は、迅速に地域の方と連携し、支援活動を展開していただき、深く感謝申し上げます。

今、地域福祉は、支える側と支えられる側が分かれるのではなく、一体となつて、地域全体で地域福祉の向上を図っていくという方向に動いております。こうした中、民生委員・児童委員の皆様方がその一番の核となり、地域づくりの要として、今後も引き続き地域福祉の活動に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、川越市民生委員児童委員協議会連合会のますますの御発展と、皆様方の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。

平成三十年度
川越市民生委員児童委員協議会連合会総会
にあたって

ふれあい福祉まつり



第二十八回
ふれあい福祉まつり実行委員長

村上 まさ

地域福祉

唯一無二のご支援に感謝

木々のみどりに囲まれた五月晴れの伊佐沼公園で、第二十八回ふれあい福祉まつりが開催されました。今回のキャッチフレーズは「平成から翼ひろげて ふれあい福祉まつり」です。

民生委員・児童委員の皆様には、創設当初からのご参加に衷心より感謝申し上げます。民生委員制度は昨年創設百周年を迎えました。一世紀もの長きにわたり、その時々の社会に対応した献身的な活動に、敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

平成は、三十年で改元されます。「国の内外、天地とも平和が達成される」の願いが込めら

れた元号です。今回は最後に記念するふれあい福祉まつりとなりました。皆様には今年も各部会がそれぞれ特色ある企画で参加くださり、共に生きる福祉のまちづくりを目指し大勢のご尽力で成功裏に終了しました。末尾ながら、ご支援ご協力に改めて厚くお礼を申し上げます。



各部会の取組紹介

生活福祉部会

子どもからお年寄り、障害ある人ない人みんなが参加し、各種の催し物をとおりして福祉を肌で感じ深めあう「ふれあい福祉まつり」に生活福祉部会は、例年通り出演者等の荷物預かりを行いました。

また、部会員皆で特訓したバルーンアートを子どもさんの注文を聞きながら、可愛い犬、色とりどりの花、男子に人気の剣など、技術的には未熟でしたが、真剣に心を込めて作りながら民児協活動のPRも行ないました。



児童福祉部会

割り箸鉄砲、ペットボトルけん玉、輪投げ(可愛いマスコット付き的)は、子

供達はもちろん、大人にも大人気で盛り上がりました。輪投げの景品に紙飛行機をプレゼント。自分好みの絵を描き、飛ばします。

市長はじめ、国会議員、民児協役員の方々が来訪、けん玉を体験し、「むずかしいわー」と、楽しそうに見ている部会員も、笑顔、笑顔でした。準備したおもちゃの殆んどを提供、来年度は増産が決定!!



主任児童委員部会

爽やかな風の吹く五月晴れに恵まれた一日でした。当部会では輪投げとスーパールボール投げが恒例で、事前の準備はいつも万端です。オレンジの風船を持って会場を廻り、お誘いの声掛けも恒例です。歩き始めたばかりのお子さんから年配の

方まで、たくさんの方々にも楽しんでいただきました。親子さんで輪投げに挑戦し、「やっぱりお父さんはバーフエクトー」と歓声が上がったり、何度も遊んでいただいたり、延べ七七〇名の方々とふれあいになりました。



高齢福祉部会

高齢福祉部会では、血圧・BMI測定器六台を用意し参加いたしました。朝十時頃には、隣の広場で開会式を観た方々が、どっと押し寄せ順番待ち状態に！「ハーイ次の方どうぞ」しなやかで、手際よい測定。高数値の方にはリスク因子&予防改善ポイントを記したメモを配布し関心を促しました。健康寿命を延ばす！昨年の一八七名越えを目指し、本年は二〇七名の方を



測定できました。受診者と和気あいあいと会話する姿に爽やかな、ふれあい福祉まつりを感じるひと時でした。

男女共同参画推進部会

男女共同参画推進部会は、毎年、湯茶接待でご来場の皆様に無料で、サービスを提供しております。

今年は、延べ六五〇名の方に美味しい新茶でのどを潤して戴きました。

午前中は爽やかな天候に恵まれ、午後は日差しが強くなり蒸し暑く感じました。

暑い時に熱いお茶も美味しいものですが、小さなお



子様には、少し冷ましたお茶を差し上げました。川越の美女達の優しい笑顔で、心もほっこりされたと自負しております。

広報部会

風薫る爽やかな気候の中、第二十八回ふれあい福祉まつりが盛大に開催され、私達広報部会も民生委員・児童委員の活動を紹介するチラシに添えて、折紙で作ったコマを会場内で多くの人に配り広報活動を実施しました。

広報部会テントでは、折紙に興味のあるお子さん連れから、高齢者の方まで多くの人が訪れ、コマの折方を真剣に教わる姿がとても印象的でした。今後も広報活動を通じて、参加者や地域の方々に民生委員活動の理解を深め、情報を発信してまいります。



連合会総会の講演を聞いて

講師

川越市社会福祉協議会
地域福祉課 小川和広氏
高階地区民生委員 兜石 定氏

平成三十年川越市民生委員児童委員協議会連合会総会が、五月二十八日、川越市総合福祉センターオアシス体育室において、一九〇名の参加者により開催されました。開会式には川越市長他多数の来賓の方々にもご出席いただきました。

総会終了後、川越市社会福祉協議会地域福祉課小川和広氏、高階地区民生委員兜石定氏を講師に迎え、『地域における災害時の支え合いについて』平成二十九年台風二十一号による寺尾地区の支援』について講演をいただきました。

小川氏からは、寺尾地区の紹介、水害発生の原因、災害ボランティアセンター設置の経緯、ボランティア活動の状況や寺尾地区の地域住民による実際の動き等



写真を交えて、具体的なお話を伺いました。社協、自治会、民生委員が協同し、近隣住民の自発的な活動を尊重する一連の動きが今回の支え合いに繋がったそうです。兜石氏からは、発生前災害時の民生委員の動きについて語られ、多くの気づきとたくさんの方々の教訓を学び、被災した方々への「傾聴」の大切さを改めて感じたと話されました。

「ずっと住みたい場所は居心地のいい人間関係があった」と言われたように、災害にも強い地域づくりが必要だと感じました。

生きがい訪問

●古谷地区●

浜氏 幹夫さん



近くの福祉会館で囲碁、将棋に興ずるようになって十年近くにもなるが、一向に上達しないのは基本的に学んでいないから。ざる碁、へぼ将棋の域を出ない。それでも楽しむことができるのでこれで十分だと思っている。近ごろは囲碁の方に夢中になり、特に互角の相手との対局に盤面での会話を楽しむことができ、面白



さを増している。

時として会話が途切れ、石を打ち交わす無言の問答は続く。妥協したり反発したり。「切る」「殺す」といった物騒なことにもなる。その結果、一喜一憂して進行し、盤上は終局に向かっていくが、小差で負けた時の悔しさは計り知れない。日ごろの彼の棋風には好感を持つていても、次は「親の敵」とばかり闘志がわいてくる。そんな彼が何日か見えないと気になり、心配で仕方がない。そんな時に「風邪をひいていた。」と顔をみせると安心して、ホッとします。



さあ落ち着いていた楽しい気分になって盤面に向かい、無言の問答が始まると、持病のことも生活の雑

念も、老いることまでも忘れての至福の時である。窓外では新緑のさわやかな伊佐沼の公園が広がっているが、この季節の移ろいも忘れている。

●名細地区●

守田

満明さん
秀子さん



第二の人生

私は今年八月で九十一才、妻は八十六才となります。

年とともに老化が進み、体の不具合をしみじみ感じながらも、自分達のペースで出来る範囲の生活をしています。

子ども達から「古希の祝」にと油絵の具一式がプレゼントされたのを機に、油絵の勉強を基礎から始め十五年程続けました。市展にも出品、賞をいただくこともできました。そして新たな友人ができたことは私の宝物です。



今は、庭いじり。私は東洋蘭・松や雑木盆栽、妻は四季折々の草花を咲かせています。我が家では「日本さくら草」や「サギ草」に力を入れて育て、毎年可憐な花を眺めては心を癒されています。開花しています。開花した時には、ご近所の方に鉢ごと貸し出して、皆さんにも楽しんでいただくことが何より嬉しく思います。



次々と咲く七種類の、今にも飛び立

つ鳥のようなサギ草が、今年も咲いてくれることを期待しています。また、毎日足腰が衰えないようご近所の花を眺め、おしゃべりをしながら、楽しく二人で散歩することを心がけています。何をやるにも二人で支え合い、体に気を付けて頑張りたいと思います。

地域の活動紹介

大東地区南台

浅井光春

ふれあいサロンと

いもっこ体操

大東地区の一翼を担う南台は、南大塚駅を挟んで交番のある北口側が南台二丁目、南口側が南台三丁目になります。両地区の人口は三九八七名で、六十五歳以上の高齢者は九五九名で、高齢化率は二十四%で川越市の二十六%より低いものの、女性はやや高くなっています。地域の活動では今



回二つのグループを紹介し
ます。

①ふれあいサロン活動は毎週月曜日に憩いの家でお茶を飲み、談笑する集まりで、かれこれ十数年、約二十名が元気に活動しています。
②南台クラブいもっこ体操は、包括支援センターだいたいから、健康寿命を維持するには、川越市推奨のいもっこ体操を普及する担い手として介護予防サポーター養成講座を受講してとのこと誘いがあり、二年前に四人で受けました。その後、だいたいとの指導の下、二丁目と三丁目合同で、地元の自治会館を借り指導員四名で南台クラブいもっこ体操を立

ち上げ、会員と毎月二回活動しています。いまは指導員も五名になり、参加者も十五名に増えました。みなさん共通していることは転ばない、転んでも骨折しない足腰と、体の全身のストレッチ体操をやることで、健康寿命をさらに延ばしたいと思っていることです。今後も継続して行きます。

高階地区

醍醐ノリ子

稲荷町ふれあいサロン・

カード作り

地区社協で見守り活動の一環として、在宅高齢者給食サービス事業が開始されて今年で二十年。給食を利用した会食と、午後のサロンには地域の高齢者も参加し、多くの出会いとふれあいがあります。

内容は、地域包括支援センターたかしなの看護師の話、体力測定、ゲームやレ

クリエーション等、参加者が楽しめるよう工夫を凝らし幅広く行っています。

第二水曜日は、いもっこ体操、脳トレ体操で健康寿命を伸ばせるよう身体を動かしています。その後は、お茶タイムで和気あいあいおしゃべりをしながら、時には悩み事の相談にも耳を傾け、必要に応じて関係機関につなぐ事もあります。

桜の季節には、近くの公園に出掛け、花の下でお弁当を広げ、手作りのゲームで楽しみます。

また、一年前より高階地区の委員と、地域の高齢者の共同で季節にあつたカードを作り、二五〇食の給食



に添えてお届けし好評をいただいています。

自治会や地域のボランティアさんをはじめ、多くの方々に感謝し、「サロンにきて良かった。楽しかった。」の言葉を励みに人と人の繋がりを大切に、これからも活動を続けたいと思います。



地区民児協だより

第七地区

鈴木 恒子

第七地区は、川越駅東口に面した、川越警察署、やすらぎのさに向かうバス通りを挟む、菅原、富士見、仙波一、二、三、四丁目と赤間川を越した大仙波の七つの自治会から成る、仙波小、第一小の一部と、第一中学校が校区です。

この区域には、毎年七月十三日の川越仙波浅間神社の初山、富士山神霊を祀った富士詣は有名で今も盛大に取り行なわれ、楽しみの一つです。また、菅原神社、妙善寺、天然寺、長徳寺、



川越観音があり、これらの社寺は、町内にある為、各自治会で開催される盆踊りの会場となり、老人会、子供会、育成会との世代間交流の憩いの場ともなっています。

また、「健康寿命日本一」を目ざす川越市を、まず地域から元気に、楽しくをモットーに、介護予防サポーターを中心に開催されるいもっこ体操教室は、七町内で開催されています。居場所づくりのおしゃべりサロンも開催され始め、オンラインカフェにも協力、応援して、各町内に開設され始めています。

月一回の定例会では、連絡、依頼、各部会の報告、委員からの活動上の事例を

共有し、考え、行動する事の再確認をし、学びの場としていきます。

会食会は、ひとり暮らしの方々と、各町内の自治会館で自治会会長と昼食を共にし、お顔馴染みになれる絶好の機会ではと、自負しています。

住み良い地域でありたいと願いつつ、育ててくれた人生の先輩と共に、今度は育ての応援団となり、さらに応援団を増やしながらい地区社協、民児協、自治会、老人会、そして育成会との出合いを大切に、お互い見守り合いながら、これからは、楽しみを一つでも増やして行きたい。そんな思いで、今年も入間川のほとりの満開のお花見を楽しみました。



主な市民児連活動予定

- 六月四日 理事会
- 七月二日 全員研修会
- 七月三日 正副会長会議
- 七月十八日 県民児協理事会
- 七月二十三日 民生委員・児童委員・主任児童委員新任研修会
- 七月二十五日 県民児協・西部ブロック民児協会長連絡会議
- 七月三十日 理事会
- 八月十七日 民生委員・児童委員・主任児童委員新任研修会
- 九月三日 理事会
- 九月四日 主任児童委員研修会
- 九月十四日 埼玉県民生委員児童委員大会
- 九月二十七日・二十八日 全国民生委員・児童委員大会(沖縄)

お詫びと訂正

第七十三号に誤った記載がありましたので、お詫びし、訂正します。一頁、会長挨拶「要援護者指導」は「要援護者支援」です。五頁、生きがい訪問「川鶴地区地区」は「川鶴地区」です。

時の鐘

平昌冬季五輪で史上最多のメダル十三個を獲得した日本代表選手団が帰国した二月二十六日、その日に第七十四号(六月号)の第一回編集会議が開催されました。

二年目(二巡目)を迎え気持ち新たに、広報誌発行の役割を再確認して取り組むことになりました。

今回は、主に五月晴れの中開催された、第二十八回ふれあい福祉まつり中心に編集しました。各部会活動の参考になればと思います。

六月号は、掲載内容から時間的余裕がなく大変な苦労がありました。

第七十四号の編集担当者は、長田汎美、浅見葉子、岩崎恵子、山崎雅晴、鈴木順子、済藤勇、黒岩幸江の七名です。



【訂正とお詫び】

P.2 1段目2行目 「平成は、三十年で改元されます。」は、

正しくは「平成は、三十一年五月で改元されます。」です。

お詫びし訂正いたします。 <川越市民児協・広報部会>